

Christiane Behn, クリスティアーネ ベーン

ドイツのハンブルクの音楽家また作曲家の一家に生まれ、5歳から祖父のピアノレッスンを受ける。その後、コンラート・ハンゼン音楽学校にてギゼラ・ストゥメ氏に師事。国立ハンブルク音楽大学では、ユルゲン・ホーファー教授、ヤラ・ベルネット教授、エルゲン・ロート教授、そしてコンラート・ハンゼン教授に師事し、卒業試験ではプロコフィエフのピアノ協奏曲第3番をハンブルクのライスハレにて演奏し、首席で卒業。

また在学中の2年間、ヤラ・ベルネット教授のアシスタントとして、また国立ハンブルク大学の講師として勤務。演奏家国家資格を取得後、世界各地でソリスト、室内楽奏者または歌曲伴奏者としてアメリカ合衆国やカナダ、メキシコ、パナマ、ブラジル、チリ、またネパールや中国、そしてヨーロッパではイギリス、オランダ、イタリア、オーストリアなどで演奏活動、及びマスタークラスを開講している。ドイツではシュレースヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭、ブラウンシュヴァイク室内楽祭、ベルリンフィルハーモニー室内楽ホール、フランクフルトの旧オペラ座、南ドイツのエルマウ城、そしてハンブルクではライスハレの大ホールでブラームスのピアノ協奏曲第2番を、聖ミヒェル教会ではメゾソプラノのアイリス・バーミリオンとシューベルトの”冬の旅”を演奏し好評を博した。

クリスティアーネ・ベーンはマーラー”交響曲第2番”、またワーグナー”トリスタンとイゾルデ”を彼女の曾祖父であるヘルマン・ベーン氏編曲による2台ピアノ版でバイロイト音楽祭, “Liszt en Provence“ 音楽祭にて演奏した。

その他の活動ではハンブルクコンセルヴァトリウムの講師、及び才能ある若手音楽家の為のハンズ・カウフマン財団にて後進の指導を行っている他に、若手音楽家の室内楽クラスやフェルドマン文化財団でも指導を行っている。

またスタインウェイコンクール、ドイツで行われる青少年の為のコンクール”Jugend musiziert“の審査員として、そしてメキシコ、パナマ、イギリス、中国の文化省からの推薦で上海にてマスタークラスを開講するなど、経験ある指導者として様々な国から招待されている。

2013年からハンブルク・モンタークサロン（ハンブルク月曜日サロン）を定期的開催し、彼女の音楽への造詣深さと様々なテーマを議題にし、広い視点からの接点を考察している。自宅では曾祖父から受け継いだ1912年製の2台のニューヨーク・スタインウェイBグランドピアノを使用。

放送局・テレビ局での放送/放映：北ドイツ放送局(NDR)、南西ドイツ放送局(SWF)、ドイツ放送局(Deutschlandfunk)、ベルリンドイツラジオ局、ハンブルクではティーデチャンネル、ZDF、NDRハンブルクジャーナル。

CD 録音:

- ジャズメッセより ピアノソロ“ missa popularis“ クラウス・バンツァー作曲 /Arte Nova レコード
- ,, 1920年代のピアノトリオ曲集” Trio Kairos / musicaphon M56880
- ,, スコットランドとその他の歌曲〜ハイドンとベートーヴェン〜”
Sopran Daniela Bechly & Trio Kairos/ musicaphon M56915
- ,, マーラー交響曲第2番” 2台ピアノ版 ヘルマン・ベーン作曲 / musicaphon M56915
- ,, こどものための言葉と音楽〜Victoria Trauttmansdorf と〜”
Sopran Daniela Bechly & Piano Christiane Behn
- L. van Beethoven ,, ハンマークラヴィーアソナタ”
- ”ハンブルクの作曲家たち〜1714年-2014年の作品を集めて〜”
- J.S. Bach ,, ゴールドベルク変奏曲”
- C. Debussy ,, 夕暮れに漂う音と香り”